



 **株式会社 原田武夫国際戦略情報研究所**
IISIA Institute for International Strategy and Information Analysis, Inc.

 **一般社団法人 日本グローバル化研究機構**
RIJAG Research Institute for Japan's Globalization

YouTube : <https://bit.ly/3B5kFtS>
Facebook : <https://www.facebook.com/iisia.jp>
X (Twitter) : <https://twitter.com/iisia>
Instagram : https://www.instagram.com/iisia_official/

X (Twitter)

Instagram

LINE



2023年度
社会貢献事業報告書

目次

- 1 IISIA/RIJAG概要
- 2 IISIA代表取締役CEO・RIJAG代表理事 原田武夫ご挨拶
- 3 「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」実現のための国内プロジェクト
 - ① 若手人財のための“情報リテラシー”教育
IISIAサマー・スクール(軽井沢)
 - ② 先端技術の社会実装に向けた取り組み
東京大学との社会連携講座
 - ③ 社会的包摂のための“慈愛”プロジェクト(“Compassion” for Social Inclusion)
 - ④ 四万十市「七星剣」年代確定プロジェクト
- 4 「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」実現のための海外プロジェクト
 - ① 国連NGOステータスの獲得
 - ② 国連STI Forum 2023
 - ③ インターネット・ガバナンス・フォーラム京都2023
 - ④ e-World Marketing Summit 2023
- 5 グローバル・アジェンダ実現のためのアドボカシー
 - ① 世界水会議(World Water Council)
 - ② 国連気候変動枠組条約第28回締約国会議(COP28)への参画
- 6 卒業生インタビュー
- 7 会員制サービス「原田武夫ゲマインシャフト」会員様の声
- 8 ご支援のお願い/編集後記

IISIA企業概要

商号 : 株式会社原田武夫国際戦略情報研究所
Institute for International Strategy and Information Analysis, Inc. (略称:IISIA)

FOUNDER/代表取締役CEO : 原田武夫

設立登記 : 2007年4月2日

事業内容 : 国内外情勢に関する調査研究
及び教育活動並びに経営コンサルティング業

資本金 : 3,000,000円

本社所在地 : 〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目3番2号 郵船ビルディング 3F

URL : <https://haradatakeo.com/>

RIJAG団体概要

法人名 : 一般社団法人日本グローバル化研究機構
Research Institute for Japan's Globalization (略称:RIJAG)

設立登記 : 2011年9月29日

事業内容 : 我が国のグローバル化に向けた研究及びそれに付随する活動の実施

URL : <https://rijag.org/jp/>

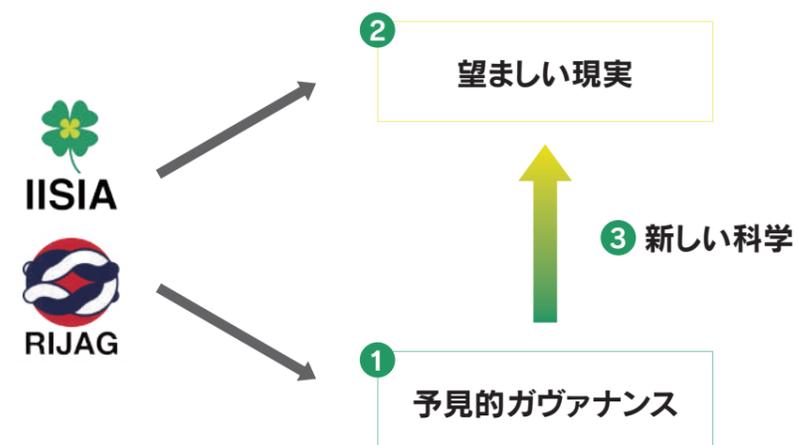
Our Vision

「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」

2023年は相次ぐ感染症の拡大や、世界各地の利上げ局面、それから中東地域で炸裂した地政学リスクなど、国内外情勢に揺さぶりをかけてくる一年でありました。人類社会全体にとっての転換点(pivot)とも言える国内外情勢の推移は「グノーシス主義的転回」の“プレリュード(前奏曲)”と言えるものであり、弊研究所が掲げるヴィジョンである「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」の実現可能性が益々高まってきております。今だからこそ「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」を以下のとおり定義し、弊研究所の「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」実現に向けた活動を各方面で展開して参りました。

“Pax Japonica”とは？

- ① 未来シナリオの構築を行うことで予見的ガバナンスの見地に立ちながら
- ② リスクフリーな環境整備を行いつつ
- ③ パブリック・エンゲージメント(Public Engagement)を伴う先端技術の社会的実装を我が国においてまずは実現し
- ④ そこで達成する「人類全体に共通する課題の数々(Grand Challenge(グランド・チャレンジ))」の解決、さらには望ましい現実(国連「持続可能な開発目標(SDGs)」等に記されているゴールに到達した場合の未来図等)の創造のための具体的な手法を、今度はグローバル社会全体に転移させていくプロセスを通して、近未来のモデルを提示する



Our Mission

Giving the People Hope and Future.

私たちは、「我が国と世界の全ての人々に希望と未来がもたらされること」を目標に活動します。あらゆる違いを越えた場づくり、輝くイノベーションをもたらす人財の育成と助言、そして“情報リテラシー”の研究開発と普及を行っております。

この“情報リテラシー”をもって今求められていることがまさに未来シナリオの構築です。この未来シナリオを我が国の視点からアップデートし続けることで予見的ガバナンスを可能にし、国内外の様々なステークホルダーと共に先端科学技術の社会実装を行い、在るべき我が国、そしてグローバル社会の未来を実現することが弊研究所の役割です。

IISIA  **QUADRI FOGLIO**
Giving the People Hope and Future

ご挨拶



かつて「企業によるメセナ」という言葉がありました。平成バブルが真っ只中であったころのことです。「ニッポンの企業は儲かっているのだから、自分のことを考えるだけでなく、もっと国際社会全体のことを考えるように」という国外からの圧力を受けての言葉であったと記憶しています。そうした中で我が国の大企業は続々とカネを出し、美術館を造ったり、あるいはコンサート・ホールを造ってみたりもしました。「ふるさと創生」と称して、全ての地方自治体に対して1億円がばらまかれた頃のことで、

今となつては懐かしい話であるわけですが、「社会貢献事業」という言葉にもどこから、このメセナと近い響きがある様に考えているのは私だけでしょうか。まず企業と社会は別であり、企業は元来、企業の中のことだけを考えれば良い、しかし儲かっているのであれば少しはお客様のいる社会に還元すべきなのだという発想がそこにはあるわけです。件のメセナと全く同じ類のものであること、お分かり頂けますでしょうか。

そして今。21世紀が始まり早くも四半世紀が過ぎ去ろうという現代においてはこうした術語がもはや死語になったのは当然のことであると考えられるわけですが。なぜならばグローバル規模で進む様々な課題・問題が襲い掛かってきているのは何も「社会」の側だけではないのであって、企業、さらにそこで経営者・従業員の別を問わず、人類全体がこれに直面するという実態を誰しもが知る様になっているからです。

したがって2024年になってから実に30有余年ぶりに強烈な株高が到来した我が国における状況は「メセナ」全盛の平成バブルの頃のそれとは全く持って違うことを前提に理解されるべきであることは言うまでもありません。そしてそこでは上述の意味での「社会貢献事業」の枠に止まることなく、今や着実に未曾有の事態へと突入しつつある人類社会全体をも視野に入れた活動が必要になっていると考えます。そしてそうした活動が果たして人類全体を救うという意味で成果をもたらすのか、その実験場となっているのが他ならぬ我が国なのであって、「針の穴に糸を通す様な厳しさ」の中でこれに成功した時、ようやく「Pax Japonica(ボックス・ジャポニカ)」なるプロセスが始まるのだと弊研究所としては確信致しております。

ポスト・コロナの時期にあつて弊研究所はその意味で「全く異次元」の課題解決に向けた社会貢献事業を2023年度は展開させて頂きました。これも一重に会員制サービス「原田武夫ゲメインシャフト」所属会員の皆様から日頃賜っておりますご厚情の故でございます。この場をお借りして心より御礼申し上げますと共に、今後とも末永くご指導・ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

株式会社原田武夫国際戦略情報研究所 代表取締役 CEO
一般社団法人日本グローバル化研究機構 代表理事

原田武夫

ボックス・ジャポニカ

「Pax Japonica」実現のための国内プロジェクト

1 若手人材のための“情報リテラシー”教育

“情報リテラシー”教育とは…

「Pax Japonica(ボックス・ジャポニカ)」が実現されるためにまず必要なこと。それは過去に対する偏りの無い正しい認識とそこから導き出した歴史法則をベースにしながら、個別の局面で日々生じ得る困難に立ち向かうべく、未来志向のロードマップを私たち全員が創り上げる能力を磨き続けることです。そうした能力を次の時代を担う若い世代が磨く場を弊研究所は様々な形で提供して参りました。

この能力をより多くの方々に身に付けて頂くため、私たちは2023年度に下記の活動を実施いたしました。

IISIAサマー・スクール(軽井沢)

2023年度には短期集中型の「IISIA サマー・スクール」を開催いたしました。

本スクールは会員制サービス「原田武夫ゲメインシャフト」会員(ブロンズ会員以上の会員ランク)様のご子息・ご息女(高校生・大学生・大学院生)限定でご参加頂ける“情報リテラシー”講座です。大手企業の研修でも弊研究所が実施いたしました未来シナリオ作成を中心とする独自カリキュラムをベースに構成いたしました。普段出会えない様々なバックグラウンドを持つ学生と切磋琢磨する宿舎形式の講義は、弊研究所としても初めての取り組みでした。本講義を通じて、参加学生による自律的学習に大きく寄与することができました。

弊研究所と致しましては“情報リテラシー教育”を次世代の我が国を担うリーダー育成に注力し、引き続き多くの学生に届けるべく、活動を拡大していく所存です。



【概要】 期日: 2023年9月7日(木)~2023年9月10日(日)
場所: 軽井沢倶楽部 ホテル軽井沢1130

- 第1講 「未来シナリオとリーダーシップ①」 — 「中国とは」
- 第2講 「未来シナリオとリーダーシップ②」 — 「ユダヤとは」
- 第3講 「未来シナリオとリーダーシップ③」 — 「金融資本主義とは」
- 第4講 「未来シナリオとリーダーシップ④」 — 「デジタル化/グローバル化とは」
- 第5講 「人工知能(AI) 演習」
- 第6講 「未来シナリオとリーダーシップ⑤」 — 「ニッポンとは」
- 第7講 「【課題発表】未来シナリオとリーダーシップ⑥」 — 「Let's Draw Your Future Scenario!!」

参加した学生の声

「初めて聞く話ばかりで、興味深かった。今後はニュースを見る際、裏で本当は何が起こっているのかを考えながら見ていきたい。」(名古屋・大学1年)

「日本と中国についての講義がとても面白く自分の考えが変わった。今後もメディアを見て学習したいと思った。」(茨城・高校3年)

「学校では教わらない内容で、目新しく非常に勉強になりました。」(大阪・大学4年)

「『近未来では、経済的な価値が無くなっていく』等講義で学んだことについては、現在学んでいるモンテッソーリ教育でも重要視されているものだと、改めて理解することができました。今勉強のために読んでいる本を、IISIAサマー・スクールの後で読むと、意味がより深く理解できるようになりました。いつの時代にも、気付いている人はいたようです。それを社会に還元できるように、動いていきたいと思えます。」(東京・専門学校・25歳)

「Pax Japonica」実現のための国内プロジェクト

2 先端技術の社会実装に向けた取り組み

弊研究所が毎年2回公表しておりますのが「予測分析シナリオ②」です。これは、ここ数年の間、急速にグローバル社会において経済協力開発機構(OECD)が主導する形で急速に始まりました、予見的ガヴァナンス(Anticipatory Governance)すなわち、未来リスクをあらかじめ思い描き、かつこれを回避するための行動を促すというアプローチを先取りするものであり、我が国発の取り組みとして高く評価を受けております。

予見的ガヴァナンスの実施に際して不可欠なのが在るべき世界との差分を埋めるための先端科学技術の社会実装ですが、この観点より弊研究所はわが国有数の大学研究機関と共同で活動を展開してきております。



東京大学との社会連携講座

「反宇宙モデル実証のための光量子を用いた量子ゆらぎ検証実験」では、反宇宙モデルにおける量子ゆらぎによる物質転送を実証するために光量子の量子ゆらぎを観察し、その制御方法を検証することを目的としております。

共同研究では、2つの実験を支援しております。「人工自我による身体知性にもとづく言語生成の実証実験」では、感情地図を応用した人工自我を基礎として、ロボット制御をChatGPTのような言語モデルと結びつけ、言語に基づいて構築されているとされる知性が身体性から構築されることを示すことを目的としております。

反宇宙モデル実証のための光量子を用いた量子ゆらぎ検証実験

2023年12月まで	実験装置(レーザ)の設置(完了)
2024年5月まで	レーザ装置の検証とテスト(進行中)
2024年春	光子検出器の発注・納品、レーザ実験装置の開発設計
2024年夏	検出器設置と実装

※2024年3月時点

人工自我による身体知性にもとづく言語生成の実証実験

2023年4月~6月	ロボットの設計(完了)
2023年5月~6月	ロボットの見積(完了)
2023年7月~10月	現代数学による拡張リーマン球の基礎的表現の確立(完了)
2023年11月~12月	拡張リーマン球代数解析学を用いた深層学習の拡張(進行中)
2024年1月	上記の基礎的表現が拡張深層学習について論文投稿
2024年2月~3月	ロボットの組み立てと初回実装

※2024年3月時点

また、先端科学技術の社会実装において不可欠なのが、これを担う若手人材の育成です。この観点より2023年度には「四則和算サマー・スクール」を実施いたしました。「四則和算」とは、2006年に光吉俊二氏により発明された切算、動算、重算、裏算から構成される算術のことです。この算術は一連の流れにより、最終的に量子のもつれを、確率を使わずに算出させることが知られており、2019年に、量子コンピューターの量子ゲート「KU」「MU」「MGN」などとして東京大学にて特許取得されております。我が国では、東京大学大学院だけではなく、すでに米子高等専門学校、鳥取大学医学部、ドルトンTOKYO学園、成基学園、パナソニックなどで公式に四則和算教育が始まっており、「四則和算」の社会的実装に向け持続可能な人材育成プラットフォームを構築するための集中講義を実施した次第です。

※2024年時点



【概要】 期日: 2023年9月5日(火)~9月7日(木)
場所: 東京大学本郷キャンパス

【講師】 光吉 俊二 (東京大学道徳感情数理工学講座特任准教授)
原田 武夫 (株式会社原田武夫国際戦略情報研究所代表取締役(CEO)兼一般社団法人日本グローバル化研究機構代表理事)
工藤 一郎 (工藤一郎国際特許事務所所長)
朝長 康介 (東京大学道徳感情数理工学講座共同研究員)
新谷 栄悟 (東京大学道徳感情数理工学講座共同研究員)

3 社会的包摂のための“慈愛”プロジェクト(Compassion for Social Inclusion)

弊研究所はグローバル・アジェンダ実現、さらにはヴィジョンであるボックス・ジャポニカ実現に際して慈愛(compassion)の原理の発露を提唱しております。この関連で2023年度には、「社会的包摂のための“慈愛”プロジェクト(Compassion for Social Inclusion)」と題し、会員制サービス「原田武夫ゲマインシャフト」の会員様を対象とした連続講演会を開催いたしました。とりわけ我が国において社会的包摂が不十分とされる以下の3分野につき、専門家の方々をお招きし、今後の社会的包摂のあり方について問題提起を行い議論いたしました。

第1回: 社会的困窮について

【概要】 タイトル: 第一弾
「社会的困窮地域で生存と幸福を可能にする実践とは」
期日: 2023年5月20日(土)
場所: AP八重洲東京
講師: 村上 靖彦 教授
(大阪大学 人間科学研究科 人間科学専攻)



第2回: 宗教二世問題について

【概要】 タイトル: 第二弾
「宗教二世問題の本質と支援メソッド」
期日: 2023年9月30日(土)
場所: AP八重洲東京
講師: 坂根 真実 様
(作家・著書「解毒 エホバの証人の洗脳から脱出したある女性の手記」)



第3回: 反社会的勢力について

【概要】 タイトル: 第三弾
「半グレなど反社会的勢力の実態と社会的包摂について」
期日: 2023年11月11日(土)
場所: AP八重洲東京
講師: 廣末 登 様
(元久留米大学文学部非常勤講師)

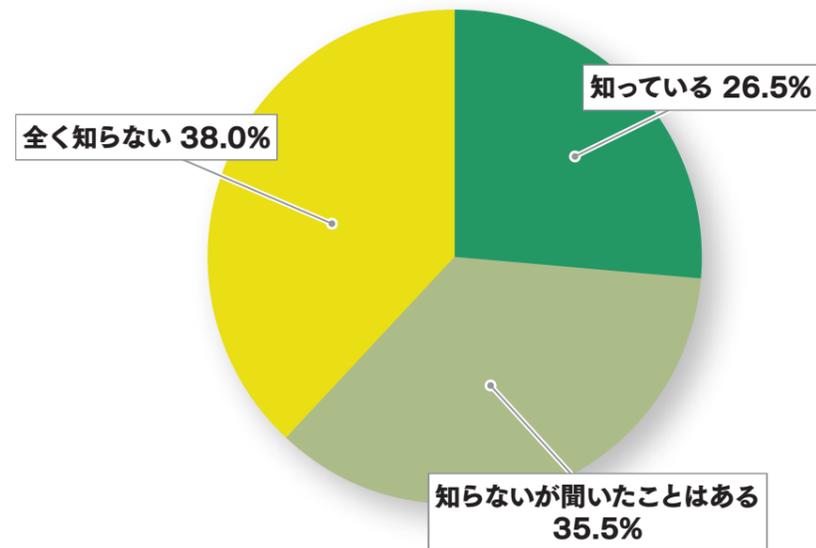


「Pax Japonica」実現のための国内プロジェクト

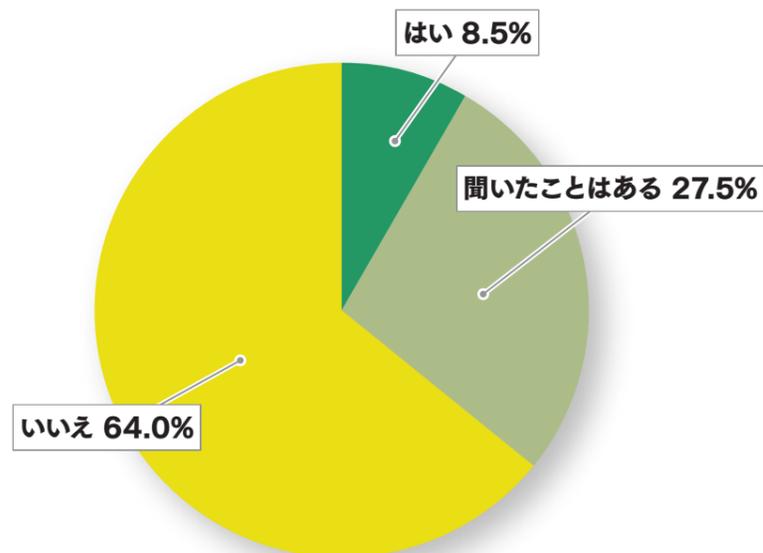
今回の連続講演会企画の実施と並行して、実際に我が国の国民を対象とした社会調査も行いました。これを通じて「社会的包摂」の課題が定量的にも見えてきた次第です。SDGsは我が国においても広く知られているものの、我が国固有の問題との関係におけるその「光と陰」というべき課題についてはその解決に向けて更なる取組みが必要であることが判明致しました。弊研究所と致しましては、引き続きSDGsで定める社会的包摂 (social inclusion) の実現に向けて尽力して参ります。

社会的包摂に対する意識調査 2023年11月インターネット調査として実施

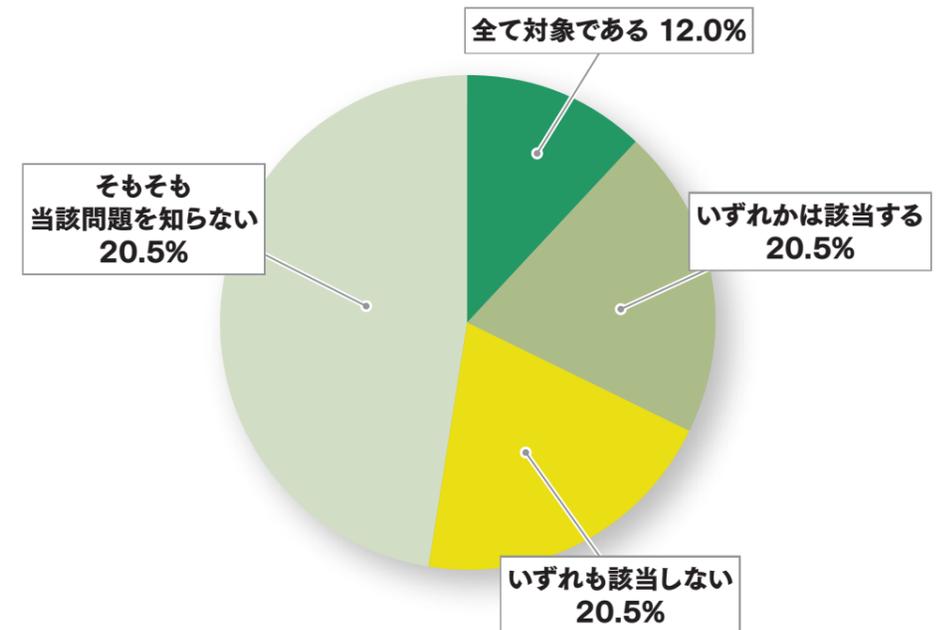
Q1 国連が定める2030年までに持続可能な世界を目指す国際目標「持続可能な開発目標 (SDGs:Sustainable Development Goals)」において、16項目目では社会的包摂 (Social Inclusion) を定めていることをご存じですか。(答えは1つ)(N=400)



Q2 社会的包摂分野について我が国政府の取組みを具体的にご存知ですか。(答えは1つ)(N=400)



Q3 「西成区の社会的困窮地域の方」、「宗教二世の方」および「反社二世の方」が社会的包摂の対象になると思いますか。(答えは1つ)(N=400)



4 四万十市「七星剣」年代確定プロジェクト

高知県四万十市への寄付を通じて歴史的価値の高い「七星剣」の年代確定調査の実施を財政的にサポートする寄付事業であり、地方創生および学術・文化振興プロジェクトとして2022年度より行っています。「七星剣」に関し、その出自および年代を確定することで、「小京都」としての高知県四万十市(土佐中村)の歴史・文化・宗教的繋がりの再評価を行い、同地域の観光業やその他産業の発展に繋げていくことを目的としています。

現在、刀身の形が完全に残っている七星剣は高知県四万十市の一宮神社を含め四振りのみとなっています。他の三振りとは違い、一宮神社の七星剣は両刃である点に特徴があります。この点も含め本件「七星剣」の価値を我が国における第一線の専門家らによる調査で明らかにすることで、今までの研究では明らかとされていなかった新たな史実の探求に努めて参ります。



2023年度における調査の進捗

- ①8月9日～11日 京都国立博物館、奈良大学における化学分析調査の実施
- ②9月8日～11日 四万十市神社調査、南国市類例調査の実施
- ③10月18日～22日 韓国類例調査の実施

「Pax Japonica」実現のための海外プロジェクト

1 国連NGOステータスの獲得

国連は複雑化したグローバル問題の解決に向け、様々な非政府機関や市民社会組織と協力しています。2022年12月に開催された国連経済社会理事会において、IISIAの姉妹団体であるRIJAGが「特殊諮問資格」を獲得いたしました。国連にて開催される会合への参加や発言等が可能になる、この「特殊諮問資格」を活用し、国連NGOグループの一員として2023年度に弊研究所は様々な議論に参画することができました。

2 国連STI Forum 2023

2023年5月、ニューヨーク国連本部にて開催されました「第8回SDGsのためのSTIに関するマルチ・ステークホルダー・フォーラム(以下、STIフォーラム)」に出席いたしました。

STIフォーラムでは、SDGsを支援する科学、技術、イノベーションの協力に関する議論が展開されました。2030年までにSDGsで定める目標達成が難しいとされている中で、トランスフォーマティブ・イノベーションの重要性を説きつつ、東京大学との間で行っている共同研究の内容について発表致し、参加者たちより大きな関心呼びました。



3 インターネット・ガバナンス・フォーラム京都2023

「インターネット・ガバナンス・フォーラム(以下、IGF)」は、国連主催の下、インターネットに関するあらゆる課題について、多様な関係者が対等な立場で対話を行うインターネット政策の分野で最も重要な会議の1つです。

京都にて開催されたIGFでは、国連教育科学文化機関(UNESCO)がリーダーシップを務めた「公務員の能力向上とDX(Empowering Civil Servants for Digital Transformation)」セッションに、UNESCO側からの招待を受ける形で代表・原田武夫がスピーカーとして出席し、我が国、とりわけ外交分野とAI導入の可能性について問題提起を行いました。弊研究所と致しましてはIGFが主導する国際的なDXの枠組みに対してもこれから参画して参る所存です。



4 e-World Marketing Summit 2023

「e-World Marketing Summit 2023」は2010年より「現代マーケティングの父」と呼ばれるフィリップ・コトラー(米ノースウェスタン大学ケロッグ経営大学院SCジョンソン特別教授)とサティア・キブリアにより、革新的なマーケティングとビジネス文化をマーケティング・リーダーに広めるために設立されました。今回の「e-World Marketing Summit 2023」では、約1億人が視聴する中、グローバル社会に向けて発信が行われました。

弊研究所代表・原田武夫は、スピーカーとして東京大学道徳感情数理工学社会連携講座が提唱する「四則和算演算子」について概論を述べた上で、国連のSDGsやESGの実現、さらにはグローバル社会全体の改革や宇宙物理学、そして人類全体社会の意識変容に向けた可能性について、説明させて頂きました。

【概要】 日時: 2023年11月8日(水)午前6時4分より約30分間(日本時間)

スピーチ題目及び概要: **“Compassion is All You Need.”**

Enhanced Artificial Intelligence with New Arithmetic Operators

Proposed from Japan and Its Implication for Marketing

URL: <https://e-wms.jp/>

グローバル・アジェンダ実現のためのアドボカシー

世界水会議(World Water Council)

「世界水会議」とは、世界で深刻化している水問題の解決に向けて1996年に設立された国際NGO組織です。2019年より弊研究所は同会議に参画しております。2023年度には、2024年に開催される「第10回世界水フォーラム」に向け、世界の国際機関等、様々なステークホルダーと共に、定期的に事前会議を行いました。その際「下水疫学調査」のグローバル規模での実施につき提言いたしました。



国連気候変動枠組条約第28回締約国会議(COP28)への参画

世界の200近い国々が協力して脱炭素化に取り組むことを約束した「パリ協定」に基づき、実施や追加ルールを議論する場として2023年11月30日(木)～12月13日(水)に「国連気候変動枠組条約第28回締約国会議(COP28)」がアラブ首長国連邦(UAE)ドバイにて開催されました。グローバル社会において重要な役割を担うアラブ首長国連邦のスルタン・アル・ジャベール産業・先端技術大臣兼気候変動特使等との関係構築を行うことができました。

卒業生インタビュー



S-I様

経歴

カナダでの高校留学の後、国際基督教大学(ICU)に入学。卒業後、名古屋大学法科大学院を修了。外資系金融機関でのコンプライアンス業務を中心にキャリアを形成。証券会社を経て現在はプライベート・エクイティ・ファンドにて勤務。

弊研究所・原田武夫とのエピソード

住んでいた学生寮の先輩に誘われて、「ICU寺子屋」に参加し、その後のインカレ開催となった「IISIAプレップスクール」、また、名古屋で開催された「名古屋IISIAプレップスクール」にも参加しました。

寺子屋時代には、キャンパス内にある学生寮の小さな和室で行っていたので、まさに「寺子屋」という雰囲気だったのが懐かしいです。

プレップスクールとしての運営が始まってからも、講義の後には居酒屋などに場所を移して議論を続けていたのも楽しい思い出です。

小さな町中華の座敷席を用意した際に、原田先生から「膝を突き合わせて議論ができる、こういう雰囲気が良いよね!」と褒めて頂いたことがうれしかったです。

プレップスクールの卒業から10年以上経った今でも、転職など人生の重要な局面があると、原田先生にご相談しています。

思い出の学び

学生時代に大学でのアカデミックな学びに加えて、実社会がどのように動いているのか、特に世界史・金融・メディアの観点から、具体的に学ぶことができたのは、その後の進路やキャリアを形成する上で非常に役立ちました。

寺子屋・プレップスクールでは、幅広いバックグラウンドを持つ優秀な学生と議論し、協力して様々な課題に取り組むことができたため、知識の習得だけでなく、グループワークやプレゼンテーションのスキルも身に付けることができました。

“情報リテラシー”についての考え

世の中の様々な要素が複雑に絡み合う、不確実性の時代を生き抜くために、“情報リテラシー”という羅針盤を持つことは一層重要になっています。また、“情報リテラシー”とは、単純な情報の分析や取捨選択ということに留まらず、予測不可能な時代に必要な「シナリオプランニング」ができるリーダーシップという側面もあります。社会人となった今、様々な場面でその重要性を実感しています。

メッセージ

今後、IISIAプレップスクール(当時)や自主ゼミを通じてIISIAで学ぶ機会がある人は、初めは自分が知らなかった様々な話に触れて、圧倒されると思います。ただ、それらをすべて覚えおくことは必要なく、一つの視点として、こういった世界があることを知っておくということがより重要だと思います。

目の前にある情報を額面通りに受け取らず、その背景・目的・得をする人・損をする人を思い浮かべながら考えることができるようになれば、情報リテラシー習得への第一歩です!

会員制サービス「原田武夫ゲマインシャフト」会員様の声

H-I

茨城県
スタートアップ会員

入会のきっかけ

私がIISIAを知ったのは公式YouTubeチャンネルにおける連続動画コラムの「道中辻斬り」です。原田代表のお話をそこから聞き始め興味を持つようになり入会しました。それ以降は「日々気づき」の連続で感謝しております。

会員をご継続頂いての感想

日頃IISIAのサービスを利用しておりますが、IISIAはやはり他とは違うと感じております。激動の時代が続きますが、これからも利用しようと思っております。

IISIAの社会貢献事業についての感想

今まさに“情報リテラシー”教育の重要性を感じております。IISIAでは東京大学の学生を始めとした学生向けの“情報リテラシー”教育が中心だったと思いますが、会員様のご子息ご息女などにも情報リテラシー教育を展開され、更に活動を展開していただきたいです。

未来を担う若者へのメッセージ

我が国がリードする平和。人々に希望と未来を。Pax Japonica!世界をリードする人材にご活躍を心より御祈り致します。

ご支援のお願い／編集後記

ご支援のお願い

弊研究所の社会貢献事業は、会員制サービス「原田武夫ゲマインシャフト」の会費から生じる利益の50パーセントを用いて行っております。同会員制サービスに入会頂くことで弊研究所を通じ、社会貢献活動に参画頂くことが可能です。

また、こうした活動に対する個別のご支援(ご寄付)をご検討頂けます場合、「お名前」「ご所属」「ご連絡先」「ご寄付額」を記載の上、下記アドレスまでご連絡いただけますようお願い申し上げます。

コーポレート・プランニング・グループ Eメール : contact@haradatakeo.com

編集後記

この度、当報告書を発行するにあたり会員様、東大「原田武夫ゼミ」生の卒業生など様々な方からのご協力を賜りました。まずはご協力頂きました関係各位に心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

昨年(2023年)は国連・経済社会理事会より特殊諮問資格を与えられたことを受け、ニューヨーク国連本部にて我々の活動をグローバル社会に対して発信する機会を得、輪を広げることができました。

不透明な国際情勢の中だからこそ、“予見のガバナンス”や“情報リテラシー”に対してグローバル社会のステークホルダーの皆様は深く共感して下さり、改めてIISIAの社会貢献事業がグローバルにおいて真に求められ、先進的な取組みであることを再確認した次第です。

2024年度においては、専門的な人財もメンバーに加わりました。「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」の一日でも早い実現に向けて誠心誠意努めさせて頂きたく存じます。

末筆ではございますが、当報告書を発行するにあたりご支援・ご協力頂いた皆様に深く感謝いたします。誠にありがとうございました。

今後とも弊研究所の社会貢献事業へご理解・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

株式会社原田武夫国際戦略情報研究所(IISIA)
コーポレート・プランニング・グループ